

2023年産

水稲栽培のしおり

香川県農業協同組合綾坂地区営農センター
香川県中讃農業改良普及センター（監修）

品質食味向上を図り、安全で安心な売れる米を作しましょう

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。



環境への配慮

- ① 稲わら、麦わら等は焼かずにすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
- ② 農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないように飛散防止対策を講じましょう。

品質・食味の向上

- ① 近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
- ② 地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょ。
- ③ 生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょう。
- ④ 必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施しましょう。
- ⑤ 収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底しましょう。
- ⑥ 品質・食味を落とさないよう初黄変率85%程度の時に収穫し、収穫後3時間以内に乾燥作業を行いましょ。

JA香川米への取組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取組みましょう。

- ① 銘柄が確認された種子（毎年、種子更新100%）により生産・出荷されたお米
- ② 栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米
(収穫15日前までに各支店・ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい)
- ③ JA香川県で農産物検査を受けたお米

※「おいでまい」は、県公募と綾川町推進地域を対象として、栽培しおりは別業とします。
※「あきさかり」の栽培しおりは別業とします。

1. 生育・管理の目安 (品種選定は、別紙「香川県水稲主要品種の特性と作付方向」を参考としましょう。)

地域名	品種名	作型	播種	田植え	初期除草剤散布 (田植後7日後)	間断灌水開始 (田植15日後)	中干し期間 (田植25日後頃～出穂25日前頃)	穂肥施用 (出穂18-16日前)	灌水開始 (出穂15日前)	本田防除1回目(いずれか)		出穂期	本田防除2回目		間断灌水開始 (出穂後15日)	落水期 (収穫7日前)	成熟期
										ゴウケツモンスター粒剤 (出穂20～15日前迄)	ダブルカットバリダフロアブル (出穂3日前～出穂直前) スタークル顆粒水溶剤 (混合散布)		(スタークル粒剤) (出穂10～20日後)	(スタークル粒剤) (出穂10～20日後)			
綾歌南部	コシヒカリ	早期	4/6	5/5	5/5～5/12	5/20	6/4～6/28	7/7	7/8	7/3～7/8	7/20～7/22	7/23	8/2～8/12	8/7	8/17	8/24	
			4/16	5/15	5/15～5/22	5/30	6/14～7/5	7/13	7/14	7/9～7/14	7/26～7/28	7/29	8/8～8/18	8/13	8/23	8/30	
		短期	5/6	5/30	5/30～6/6	6/14	6/26～7/16	7/22	7/23	7/18～7/23	8/4～8/6	8/7	8/17～8/27	8/22	9/3	9/10	
			5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/24	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/4	8/30	9/14	9/21	
ヒノヒカリ	6/1	6/20	6/20～6/27	7/5	7/15～7/28	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7			
	6/15	6/25	6/25～7/2	7/10	7/20～8/4	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7			
坂出	コシヒカリ	短期	6/1	6/20	6/20～6/27	7/5	7/15～7/21	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/4	8/30	9/13	9/20	
			6/6	6/25	6/25～7/2	7/10	7/20～8/4	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7	
ヒノヒカリ	6/6	6/25	6/25～7/2	7/10	7/20～8/4	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7			
	6/15	6/25	6/25～7/2	7/10	7/20～8/4	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7			
クレナイモチ	5/29	6/18	6/18～6/25	7/3	7/13～8/3	8/10	8/13	8/8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/7～9/17	9/12	10/5	10/12			
	5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/24	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/4	8/30	9/14	9/21			
水の必要度/水の深さ				○	○	○	△	○	○	○		○	○	○	×		
品種名及び作業日				月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日

※中干しの開始及び終了時期、期間を守りましょう。(亀裂の程度 中干しは10ミリまで) また、強い中干しは収量・品質を低下させますので注意しましょう。

2. 施肥基準

1) 基肥+穂肥の施肥基準

肥料名	全量	基肥	穂肥 (出穂16日前)	成分量
コシヒカリ (早期栽培 5月15日までの田植)	52	32	20	N 5.2 P 4.4 K 4.4
コシヒカリ (短期栽培 5月16日以降の田植)	44	24	20	N 4.4 P 4.4 K 4.4
ヒノヒカリ	53	28	25	N 7.4 P 7.4 K 7.4

2) 基肥一発の施肥基準

肥料名	全量(基肥)	成分量
コシヒカリ (早期栽培 5月15日までの田植)	45	N 4.5 P 4.5 K 4.5
コシヒカリ (短期栽培 5月16日以降の田植)	40	N 4.0 P 4.0 K 4.0
ヒノヒカリ	35	N 7.0 P 4.2 K 4.2

3) 土壌改良資材

資材名	全量(基肥)
ユーキ鉄ケイカル	100
苦土一歩	40
けい酸加里	30-40

本田施肥上の注意事項

- ① 手振りの場合は、基肥を1割増肥する。
 - ② 基肥一発施肥は基肥のみの施用になるので、散布ムラのないよう注意する。また、穂肥は施用しない。
 - ③ 基肥は地力、前作物の状態によって、穂肥は生育や気象状況によって、加減して過剰施肥を避ける。
 - ④ 全品種とも、土づくりのため、荒起こし時にユーキ鉄ケイカルまたは苦土一歩を施用する。
 - ⑤ 苦土一歩、けい酸加里の施用時期は、基肥、追肥(出穂30-40日前)いずれの施用でも良い。
- ※水田では、肥料成分溶出後の被膜殻が浮上することがありますので、被膜殻を圃場外へ流出させないように注意して下さい。

3. 雑草防除基準

区分	使用時期(推奨)	対象雑草名	除草剤名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日
				10a当り使用量	使用時期	使用回数		
初期除草剤	移植直後～7日	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	カチボシL ジャンボ	30g×10個 (300g)	移植直後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	① 散布後3～4日は水深3～5cmを保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ② 藻や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、薬害や効果不良のおそれがあるので、使用しない。	月日
	移植直後～9日	ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘルムシロ アオミドロ 藻類 による表層剥離	ジェイソウル フロアブル	500ml	移植直後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	① 移植時処理は、田植機に専用散布機を装着した場合に限る。 ② 灌水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ③ 藻類が繁殖した後は効果が劣るので、藻類の発生前～発生開始までに散布する。	月日
中	移植後7日～ノビエ3葉期まで	ノビエ キシュウスズメノヒエ アゼガヤ	クリンチャー 1キログラム	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし、収穫30日前まで	2回以内	① 初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ② 散布後3～4日間は灌水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ③ クリンチャーバスマE液剤とあわせて3回以内の使用とする。	月日
	移植後15日～ノビエ4葉期まで	ノビエ	ヒエクリン 1キログラム	1kg	移植後15日～ノビエ4葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	① 初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ② 灌水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ③ 散布後3～4日間は灌水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。	月日
除	移植後14日～ノビエ3.5葉期まで	マツバイ ホタルイ クログワイ ミズガヤツリ ウリカワ	セカンドショット SジャンボMX	25g×20個 (500g)	移植後14日～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	① 灌水状態で10a/20個を均一に投げ込む。 ② 散布後落水状態で7日間落水、かけ流しをしない。 ③ 藻や稲ワラ等残渣は拡散を助け、効果不足の原因となります。	月日
	移植後20日～ノビエ4葉期まで(落水後処理)	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ キシュウスズメノヒエ	クリンチャー バスマE液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで	2回以内	① 水70～100ℓに溶かして使用する。 ② 落水してから散布し、その後3日間は落水しない。 ③ クリンチャー1キログラムとあわせて3回以内の使用とする。 ④ バサグラン粒剤とあわせて2回以内の使用とする。	月日
剤	移植後20日～30日(落水後処理)	水田一年生雑草(イネ科除く) ホタルイ、マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後15日～55日 ただし、収穫60日前まで	1回	① 落水又はごく浅く灌水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ② 散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、落水、落水、かけ流しをしない。 ③ クリンチャーバスマE液剤とあわせて2回以内の使用とする。	月日
	発生始期～盛期	ウキ草類 藻類	モゲトン粒剤	2～3kg	発生始期～盛期 ただし、収穫45日前まで	3回以内	① 散布後少なくとも3～4日間はそのままの灌水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ② 水稲が水没するような極端な深水をすると薬害を生ずることがあるので避ける。	月日

◆ 倒伏軽減剤

使用時期	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日
		10a当り使用量	使用時期	回数		
出穂25～10日前	ロミカ粒剤	2～3kg	出穂25～10日前	1回	① 灌水処理とし散布量を厳守し均一に散布する。 ② 当剤を使用した水田の土壌を野菜類の育苗用床土にしない。	月日

4. 病害虫防除基準

1) 必須防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日
			希釈倍数	使用時期	回数		
浸種前	ばか節病、いもち病 もみ枯病、こま葉枯病	テクリードC フロアブル	200倍 (水10ℓに50ml)	浸種前	1回	① 乾燥剤と同量～2倍量の薬液に24時間浸漬する。 ② 消毒後は種子を水洗いせずに使用する。 ③ 消毒後の薬液は用水などに流さない。	月日
			1000倍 (水10ℓに100ml)	播種前	1回		月日

育苗期の防除

対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
		希釈倍数	1箱当り使用量	回数			
苗立枯病	トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	タコレート 水和剤	400～600倍 (水10ℓに25～166g)	希釈液を500ml灌水	播種時～緑化期 2回以内	① 播種14日後までに使用する。 ② タチガレーヌM液剤、同粉剤を使用した場合は、必ず使用間隔を3日以上あける。	月日

育苗箱防除

防除時期	使用地域	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
				1箱当り使用量	使用時期	回数			
田植当日	いづれか	いもち病 多発地域	いもち病、ウツカ類 ツマグロコバ	Dr.ネビスタークル 箱粒剤	50g	緑化期～移植当日	1回	① 老化苗、軟弱徒長苗、葉葉がぬれているときは葉害のおそれがあるので使用しない。 ② 葉葉に付着した薬剤は、払い落として移植する。 ③ 移植後は直ちに灌水し、土が露出しないようにする。	月日
					50g				月日
					50g				月日

※「水稲育苗のしおり」を参考に施用する。

本田防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
			10a当り使用量	使用時期	回数			
防除一回目	いづれか	いもち病、紋枯病 ウツカ類、カメムシ類 ツマグロコバ	ゴウケツモンスター粒剤	3kg	収穫45日前まで	1回	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月日
				1000倍 60～200ℓ	穂揃期まで			2回以内
防除二回目	いづれか	いもち病、紋枯病 ウツカ類 ツマグロコバ	スタークル顆粒水溶剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内	① 粒剤は3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。 ② 水田周辺や深水になる場所は散布後、稲葉に付着した薬剤は、払い落とす。 ③ ゴウケツモンスター粒剤を使用した場合は、粒剤・水溶液あわせて2回以内の使用回数とする。 ④ 斑点米の発生を防ぐため、必須防除とする。	月日
				2000倍 60～150ℓ				月日

※出穂前にダブルカットバリダフロアブルとスタークル顆粒水溶剤の混用散布を行う。

2) 確認防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)			注意事項	品種及び使用月日
			10a当り使用量	使用時期	回数		
移植後	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	スクミリン	1～4kg	収穫60日前まで	2回以内	① 移植後、スクミリンゴガイを確認したら直ちに散布する。 ② 水田周辺や深水になる場所は散布が多いので、所定の範囲内で多めに散布する。	月日
			1～2kg	月日			
穂ばらみ期～穂揃期	紋枯病 稲こやし病	モンガリット粒剤	3～4kg	収穫45日前まで	2回以内	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月日
			月日				
7月中旬～8月上旬	ウツカ類 ツマグロコバ イネツトムシ コブノメイガ	バダン粒剤4	3～4kg	収穫30日前まで	6回以内	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月日
			月日				
粟いもち 初発10日前～初発時	いもち病	コラトフ豆つぶ	250g	出穂5日前まで	2回以内	① コラトフ豆つぶは、3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月日
			1000倍	収穫7日前まで			月日

※稲こやし病の液剤処理はブラシフロアブル1000倍で行う。

※農薬・除草剤は2022年10月1日現在の登録状況による 2022年10月作成